

「健康・医療戦略 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ
(2018年度終了時点)」

健康・医療戦略 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)

通し番号	KPI(一部変更2017年2月17日閣議決定)	最新の数値	「平成30年度の取組方針」 (平成30年5月29日推進本部決定)	これまで(2018年度末時点)のKPIの進捗状況	2019年度の取組方針	KPIの出典
ア)世界最高水準の医療の提供に資する医療分野の研究開発等に関する施策						
○ 医薬品創出【2020年までの達成目標】						
SI-001	・相談・シーズ評価 1,500件			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-001を参照。		
SI-002	・有望シーズへの創薬 支援 200件			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-002を参照。		
SI-003	・企業への導出(ライセンスアウト) 5件			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-003を参照。		
SI-004	・創薬ターゲットの同定 10件			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-004を参照。		
○ 医療機器開発【2020年までの達成目標】						
SI-005	・医療機器の輸出額を 倍増(2011年約5千億円 →約1兆円)			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-005を参照。		
SI-006	・5種類以上の革新的医 療機器の実用化			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-006を参照。		
SI-007	・国内医療機器市場規 模の拡大 3.2兆円			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-007を参照。		
○ 革新的な医療技術創出拠点【2020年までの達成目標】						
SI-008	・医師主導治験届出数 年間40件			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-008を参照。		
SI-009	・First in Human(FIH)試 験(企業治験を含む。)年 間40件			・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-009を参照。		
○ 再生医療【2020年までの達成目標】						

通し番号	KPI(一部変更2017年2月17日閣議決定)	最新の数値	「平成30年度の取組方針」 (平成30年5月29日推進本部決定)	これまで(2018年度末時点)のKPIの進捗状況	2019年度の取組方針	KPIの出典
SI-010		・iPS細胞技術を活用して作製した新規治療薬の臨床応用(臨床研究又は治験の開始)		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-010を参照。		
SI-011		・再生医療等製品の薬事承認数の増加		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-011を参照。		
SI-012		・臨床研究又は治験に移行する対象疾患の拡大 35件		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-012を参照。		
SI-013		・再生医療関係の周辺機器・装置の実用化		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-013を参照。		
SI-014		・iPS細胞技術を応用した医薬品心毒性評価法の国際標準化への提言		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-014を参照。		
○ オーダーメイド・ゲノム医療【2020年までの達成目標】						
SI-015		・糖尿病などに関するリスク予測や予防、診断(層別化)や治療、薬剤の選択・最適化等に係るエビデンスの創出		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-015を参照。		
SI-016		・発がん予測診断、抗がん剤等の治療反応性や副作用の予測診断に係る臨床研究の開始		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-016を参照。		
SI-017		・認知症・感覚器系領域のゲノム医療に係る臨床研究の開始		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-017を参照。		
SI-018		・神経・筋難病等の革新的な診断・治療法の開発に係る臨床研究の開始		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-018を参照。		
○ 疾患に対応した研究<がん>【2020年までの達成目標】						
SI-019		・日本発の革新的ながん治療薬の創出に向けた10種類以上の治験への導出		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-019を参照。		

通し番号	KPI(一部変更2017年2月17日閣議決定)	最新の数値	「平成30年度の取組方針」 (平成30年5月29日推進本部決定)	これまで(2018年度末時点)のKPIの進捗状況	2019年度の取組方針	KPIの典拠
SI-020		・小児がん、難治性がん、希少がん等に関して、未承認薬・適応外薬を含む治療薬の実用化に向けた12種類以上の治験への導出		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-020を参照。		
SI-021		・小児がん、希少がん等の治療薬に関して1種類以上の薬事承認・効能追加		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-021を参照。		
SI-022		・いわゆるドラッグ・ラグ、デバイス・ラグの解消		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-022を参照。		
SI-023		・小児・高齢者のがん、希少がんに対する標準治療の確立(3件以上のガイドラインを作成。)		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-023を参照。		
○ 疾患に対応した研究<精神・神経疾患>【2020年までの達成目標】						
SI-024		・認知症の診断・治療効果に資するバイオマーカーの確立(臨床POC取得1件以上)		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-024を参照。		
SI-025		・日本発の認知症の疾患修飾薬候補の治験開始		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-025を参照。		
SI-026		・精神疾患の客観的診断法の確立(臨床POC取得4件以上、診療ガイドライン策定5件以上)		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-026を参照。		
SI-027		・精神疾患の適正な治療法の確立(臨床POC取得3件以上、診療ガイドライン策定5件以上)		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-027を参照。		
SI-028		・脳全体の神経回路の構造と活動に関するマップの完成		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-028を参照。		
○ 疾患に対応した研究<新興・再興感染症>【2020年までの達成目標】						

通し番号	KPI(一部変更2017年2月17日閣議決定)	最新の数値	「平成30年度の取組方針」 (平成30年5月29日推進本部決定)	これまで(2018年度末時点)のKPIの進捗状況	2019年度の取組方針	KPIの出典
SI-029	・得られた病原体(インフルエンザ・ Dengue熱・下痢症感染症・薬剤耐性菌)の全ゲノムデータベース等を基にした、薬剤ターゲット部位の特定及び新たな迅速診断法等の開発・実用化		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-029を参照。			
SI-030	・ノロウイルスワクチン及び経鼻インフルエンザワクチンに関する臨床研究及び治験の実施並びに薬事承認の申請		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-030を参照。			
【2030年までの達成目標】						
SI-031	・新たなワクチンの開発 (例: インフルエンザに対する万能ワクチンなど)		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-031を参照。			
SI-032	・新たな抗菌薬・抗ウイルス薬等の開発		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-032を参照。			
SI-033	・WHO、諸外国と連携したポリオ、麻疹等の感染症の根絶・排除の達成 (結核については2050年までの達成目標)		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-033を参照。			
○ 疾患に対応した研究<難病> 【2020年までの達成目標】						
SI-034	・新規薬剤の薬事承認や既存薬剤の適応拡大を11件以上達成 (筋萎縮性側索硬化症(ALS)、遺伝型ミオパチーなど)		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-034を参照。			
SI-035	・欧米等のデータベースと連携した国際共同臨床研究及び治験の開始		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-035を参照。			
SI-036	・未診断又は希少疾患に対する新規原因遺伝子又は新規疾患の発見を5件以上達成		・「医療分野研究開発推進計画 達成すべき成果目標(KPI)のフォローアップ(2018年度終了時点)」における通し番号KI-036を参照。			
イ) 健康・医療に関する新産業創出及び国際展開の促進等に関する施策 【2020年までの達成目標】						

通し番号	KPI(一部変更2017年2月17日閣議決定)	最新の数値	「平成30年度の取組方針」 (平成30年5月29日推進本部決定)	これまで(2018年度末時点)のKPIの進捗状況	2019年度の取組方針	KPIの典拠
SI-037	健康増進・予防、生活支援関連産業の市場規模を拡大(4兆円→10兆円)	6.4兆円	・次世代ヘルスケア産業協議会等の検討結果を踏まえ、健康経営を行う企業の推進体制の整備や情報開示を促進するとともに、中小企業に普及するため、中小企業等の取組を顕彰する制度の創設と優遇措置の拡大を実施する等の具体策を実施する。 ・また「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」の設置促進、地域包括ケアシステム構築に向けた「医福・産学金」連携の枠組みと、地域版協議会を核とした医療関係者との連携強化、インターネット等を活用した保険外サービスの見える化と、利用者にとっての安心安全を確保するための科学的根拠に基づいた質の評価の仕組みの構築、ファンドや地域資源の活用促進等に向けた具体策を検討・実施する。	・「次世代ヘルスケア産業協議会」及び、「健康投資WG」における検討結果等を踏まえ、以下の取組を実施した。 ①「健康経営」に積極的に取り組む企業が株式市場で評価される仕組みを構築するため、東京証券取引所と経済産業省が共同で、「健康経営銘柄2019」に37社を選定した。 ②更に、健康経営を「企業文化」として定着させていくために、上場企業に限らず健康経営に取り組む法人を顕彰する「健康経営優良法人認定制度」では、2019年2月に日本健康会議が「健康経営優良法人2019」として大規模法人部門で800人以上、中小規模法人部門で2500人以上以上を認定した。 ・「次世代ヘルスケア産業協議会」及び、「新事業創出WG」における検討結果等を踏まえ、以下の取組を実施した。 ①産業競争力強化法のグレーゾーン解消制度を活用し、ヘルスケア産業分野で全26件の個別事例について解消した。 ②「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」を設置促進した。 (2018年度末までに、全国5ブロック、17府県、19市、合計41か所で設置) ③(株)地域経済活性化支援機構(REVIC)がヘルスケア産業関連企業累計26社に出資した。 ④地域を支えるヘルスケアサービスを提供する次世代のヘルスケア事業者を発掘・育成することを目的として、厚生労働省とともにヘルスケア関連のイベント・プログラムと広く連携し、ジャパン・ヘルスケア・ビジネスコンテストやWell Aging Society Summit Asia- Japanを開催した。	・次世代ヘルスケア産業協議会等の検討結果を踏まえ、健康経営を行う企業の推進体制の整備や情報開示を促進するとともに、中小企業に普及するため、中小企業等の取組を顕彰する制度の創設と優遇措置の拡大を実施する等の具体策を実施する。 ・また「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」の設置促進、地域包括ケアシステム構築に向けた「医福・産学金」連携の枠組みと、地域版協議会を核とした医療関係者との連携強化、インターネット等を活用した保険外サービスの見える化と、利用者にとっての安心安全を確保するための科学的根拠に基づいた質の評価の仕組みの構築、ファンドや地域資源の活用促進等に向けた具体策を検討・実施する。	厚生労働省、その他民間法人等による調査結果をもとに算出。
SI-038	健康・医療分野における官民ファンドと民間からの協調出資がなされた件数の比率を100%	100%	・引き続き、官民ファンドと民間からの協調出資がなされた件数の比率100%を目指す。	・これまでの協調出資については、100%の比率を達成した。 (参考) ・中小機構において、健康・医療分野のベンチャー企業や中小企業等へ資金供給するファンドに対し、1件のLP出資を実施した。(累計6件) ・株式会社INCJにおいて、健康・医療分野の企業に対し、4件(注)の出資を実施した。 (注)うち、新規の出資が2件、追加出資が2件。	・引き続き、官民ファンドと民間からの協調出資がなされた件数の比率100%を目指す。	出資実績
SI-039	海外に日本の医療拠点を創設(3カ所→20カ所程度)	24拠点	・平成32年までに新興国を中心に日本の国際医療拠点を20カ所程度創設を目標に推進する。	・日本の国際医療拠点については、2018年度末時点で合計24拠点となった。	・2020年までに新興国を中心に、日本の国際医療拠点を20カ所程度創設することを目標としていたが、前倒しで達成した。引き続き、関係府省や関係機関と連携の下、医療の国際展開を推進する。	企業ヒアリング等
【2030年までの達成目標】						
SI-040	日本の医療技術・サービスが獲得する海外市場規模を5兆円	2016年:医療機器の海外売上高(23社)1兆7624億円、2016年:医薬品の海外売上高(26社)3兆2621億円	・引き続きインバウンドとアウトバウンドを両輪として推進する。	・日本の医療技術・サービスが獲得する海外市場規模は、医療機器・医薬品の海外売上高の合計で把握することとし、2016年:医療機器の海外売上高(23社)1兆7624億円、2016年:医薬品の海外売上高(26社)3兆2621億円となった。 ・インバウンドの推進としては、渡航受診者の受入に関して、意欲と能力のある国内医療機関を「ジャパン・インターナショナル・ホスピタルズ(JIH)」として、MEJが2017年1月に公表し、2019年2月時点で49病院となった。	・引き続きインバウンドとアウトバウンドを両輪として推進する。	医療機器の海外売上高:IRデータを用いた医療機器産業の海外展開分析、医機連ジャーナル 第99号 医薬品の海外売上高:日本製薬工業協会DATA BOOK 2018
ウ)健康・医療に関する先進的研究開発及び新産業創出に関する教育の振興・人材の確保等に関する施策 【2020年までの達成目標】						

通し番号	KPI(一部変更2017年2月17日閣議決定)	最新の数値	「平成30年度の取組方針」 (平成30年5月29日推進本部決定)	これまで(2018年度末時点)のKPIの進捗状況	2019年度の取組方針	KPIの出典
SI-041	・国民の健康寿命を1歳以上延伸	男性: +1.72歳 女性: +1.17歳 (2016年(2010年対比))	・2018年夏頃を目途に健康日本21(第二次)中間評価を行う。その結果を踏まえ、引き続き、健康日本21(第二次)の理念に基づき、健康寿命の更なる延伸を図る。	・2018年8月、健康日本21(第二次)推進専門委員会において健康日本21(第二次)中間評価報告書を取りまとめた。 ・2016年の健康寿命は男性72.14年、女性74.79年であり、2010年の健康寿命である男性70.42年、女性73.62年より延伸し、KPIを達成している。	・2021年に算定される健康寿命をもとに、健康寿命の更なる延伸のため、健康日本21(第二次)の理念に基づき、厚生労働省が進めている各種施策を推進していく。	国民生活基礎調査(大規模調査)の結果を基に厚生労働省において算出
SI-042	・メタボ人口を平成20年度比25%減	14.2% (2017年度)	・保険者機能の責任を明確にする観点から、全保険者の特定健診・保健指導の実施率を、平成29年度実績から公表する。 ・見直し後の制度が円滑に実施されるよう必要な支援を行う。 ・適正化計画について毎年度進捗管理を行うことで、効果的なPDCAサイクルを実行していく。	・特定保健指導対象者の減少率については、2017年度実績で14.2%となっており、2008年度と比べて減少しているものの、より一層の予防・健康づくりの取組が求められる。	・保険者機能の責任を明確にする観点から、2018年度の保険者別の特定健診・特定保健指導の実施率を公表する。 ・2018年度より開始した第3期医療費適正化計画について、PDCA管理を実施する。	厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況」
SI-043	・健診受診率(40～74歳)を80%(特定健診を含む。)	71.0% (2016年)	・引き続き、地域・職域連携を推進し、スマート・ライフ・プロジェクトにおける健診・検診全般の重要性についての普及啓発や各健診の受診勧奨、保険者によるデータ分析に基づく保健事業(データヘルス)の実施等を行うことにより、健診受診率向上のための取組を進めていく。	2010年(67.7%)と比較すると増加傾向にある。 なお、特定健康診査を含む健診の受診率は2016年度において71.0%であり、制度開始時(2008年度)の38.9%から30%以上増加しているものの、より一層の取組が求められる。	・スマート・ライフ・プロジェクトにおいて、健診受診しやすいように工夫された取組の横展開を進めるとともに、行動経済学などの新たな視点も踏まえ、成功要因や横展開のポイントなどを抽出し、ガイドブックを作成するなどの施策を更に推進していく。	国民生活基礎調査(大規模調査)
エ) オールジャパンでの医療等データ活用基盤構築・ICT利活用推進に関する施策						
【2020年までの達成目標】						
SI-044	・レセプトデータに加え、これまで利用されていない検査データ等を含む医療・介護・健康分野のデジタル基盤を構築し、臨床研究及び治験、コホート研究等で(現在は利用不可能な)医療等情報を利用	—	・次世代医療基盤法の施行に向けて、引き続き、所要の政省令の整備等を実施する。 ・「次世代医療ICT基盤協議会」にて、引き続き、医療等情報の利活用促進の検討を行う。	・2018年5月11日に次世代医療基盤法を施行し、適切な普及啓発を図った。	・匿名加工医療情報の医療分野の研究開発への利活用の推進など、引き続き、次世代医療基盤法を円滑に運用する。	—